

聖籠町の幼児教育推進体制を活用した 幼保小の架け橋プログラム促進事業

令和7年度 活動内容



聖籠町幼児教育センター

幼児教育センターの取組

◎町内すべての園で
充実した幼児教育を

非認知能力と
認知能力の育成

◎町内すべての
園と小学校で
円滑な接続を

架け橋プログラムの
推進

この2つを大切に町の幼児教育を進めています

幼児教育センターの主な取組

1. 幼児教育の質と指導力の向上

2. 幼保小の円滑な接続・連携

3. 幼児教育資料の作成と活用

4. 町の幼児教育の積極的な発信

5. 幼児教育アドバイザーの質の向上

1. 幼児教育の質と指導力の向上

(1) 町立・私立園へ「定期訪問研修」

(2) 町立・私立園の「合同研修会」

(3) 各園を繋ぐ「オンライン研修会」

(1)町立・私立園への「定期訪問研修」

町立・私立園への定期訪問研修

◎幼児教育アドバイザー兼架け橋期コーディネーター
が保育を参観し、園教諭へ指導。また悩みへの助言。

・ 町立幼稚園 1 園
（3～5歳児）

・ 私立認定こども園 4 園
（0～5歳児）

・ 私立保育園 1 園
（0～2歳児）

6園を、それぞれ毎月2日間訪問

①午前に保育参観と動画撮影

②午後に話し合いと指導・助言

③まとめを作成し、配付

定期訪問研修の実際

①アドバイザーが午前中、0～5歳児が主体的に活動している場面等を動画撮影



②園の昼寝の時間や夕方に再訪し、担任や管理職と1時間半程度話し合い
当日の保育や悩み等について助言



③訪問後、保育の様子や話し合いの内容を紙面にまとめ、園に配付し、保育の改善に活かしてもらう

定期訪問後に園に配付する資料

せいらう幼稚園訪問(R7.10.7)

[5歳児]

○運動会の競技を子どもたちが再度やって見せ、一緒に踊ったり走ったりしながら「こうするといいよ」という5歳児の個々の意見を発表させ個々の自信に繋げていました。経験したこと、運動会に向かい自分たちが言われてきたことを自分の言葉として発言しやすい姿が見られました。

ただ、負けても文句も言わず自分が力を出し走っていることが心地よい姿の子がほとんど…。人数が少ない今年度の5歳児は刺激が少ないように感じました。



[5歳児]

～個性ある子どもたちへの対応～

担任が個人をよく把握し対応していました。特にk君は、我慢という部分を少し覚えてきたように感じます。



俺の気持ちわかってくれる？

自分たちで準備をする5歳児



○5歳児の現在の育ちとしては幼く、場は同じにしているも、個々に自分の力を出し切っていることが楽しい姿が見られました。

○短期計画、日案共にこの時期の願いや支えをしっかりと捉えています。ただ、現実の姿がそこに達していないのであれば、少しでも引き上げるかわりとして、支えをどうしていくことがベストか、**子どもたちの経験として何が必要かを考え保育におおろしていかなければなりません。**例えば、チームでの相談が意識できなければ、“2～3人のチームで話し合う”“人の意見を聞く”という**経験を積み上げ、徐々に人数を増やしていく必要があります。**そうすることでどこまで伸びるかは子ども次第かもしれませんが、**現実の子どもを把握する目と実際に保育で何をしていく必要があるのかという両者の目が子どもたちを育てることにつながると**思います。

子どもたちの育とうとする力を信じ保育者は、諦めない保育を目指しましょう！

[4歳児]

○憧れの5歳児がやっていたリレーの仲間に入れてもらい、5歳児になった気分を味わっていました。自分の力を思い切り出しバトンを持って走れることが楽しいという姿が見られました。

○リレーをやる中で、個々に感じたことを口にする子が数人いました。



[3歳児]

○外に出て、木の根っこ堀りを眺めたり、ブランコを楽しんだりトンボを追いかけて遊んだりなどの姿が見られました。4、5歳児の走る姿を見てはいたけれど、自分たちから入る姿は見られませんでした。



○年長の競技に参加させてもらうことは4歳児にとって来年度につながる良い活動です。ただ、**どこまで子どもたちに求める必要があるのか**という部分をしっかりと考えていく事が大事です。バトンを持たせた方がいいのか、ピスは来た方がいいのか、来年度の楽しみとした方がいいものはないか等考えていきましょう。

○4歳児の今の時期の個々の思いや考えに対してはどう対応すればいいのか？5歳児と違うかわかりで、何が大事なのか考えてみてください。

4歳と5歳が混ざったリレー

○短期の中に“運動会後の真似”の姿の記載がありましたが、本日子ども自ら入る姿は見られませんでした。**真似をして欲しい保育者の願いがあるならば、どんな環境やどんな保育者の動きが必要か考えて動くことが大事**です。子ども自らだけで出てこない動きを、保育者が環境として提案していく事も大事な保育です。

保育者が楽しんでいるところに寄ってくるという3歳児の特性を大いに活用しましょう！

「いたね」と虫一つで集まれるようになった3歳児

(2)町立・私立園の「合同研修会」

町立・私立園の合同研修会

3歳児研究保育協議会

指導者：新潟大学有井講師

○「安心感をもち自ら動き出す援助と環境構成」

4歳児研究保育協議会

指導者：新潟大学中島教授

○「主体性を育む援助と環境構成」

園・小・中学校合同

5歳児架け橋期研究保育協議会

指導者：新潟大学中島教授

○「目的に向かって自ら考え活動を進めていく子どもの姿は、小学校へどうつながっていくか」

※参加者

町内園教諭	14人
町内小学校教諭	11人
町内中学校教諭	2人
町内教育委員会	4人
町外園教諭	16人
町外教育委員会	3人
町外大学院生	1人

(近隣市連携事業として、新発田市・阿賀野市・胎内市からも参加)

<p>園長・副園長・中堅 研修会 指導者：元聖籠町立幼稚園長</p>	<p>○「上司としての役割」</p>												
<p><u>園・小・中学校合同</u> 特別支援教育研修会 指導者：新潟青陵大学教授 (近隣市連携事業として、新発 田市・阿賀野市・胎内市から も参加)</p>	<p>○「事例を通して考える、特別な配慮が 必要な子どもへの支援と環境構成」</p> <p>※参加者</p> <table data-bbox="1176 611 1823 1039"> <tr> <td>町内園教諭</td> <td>23人</td> </tr> <tr> <td>町内小学校教諭</td> <td>20人</td> </tr> <tr> <td>町内教育委員会</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>町外園教諭</td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td>町外小学校教諭</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>町外教育委員会</td> <td>2人</td> </tr> </table>	町内園教諭	23人	町内小学校教諭	20人	町内教育委員会	5人	町外園教諭	18人	町外小学校教諭	4人	町外教育委員会	2人
町内園教諭	23人												
町内小学校教諭	20人												
町内教育委員会	5人												
町外園教諭	18人												
町外小学校教諭	4人												
町外教育委員会	2人												

※「5歳児架け橋期研究保育協議会」と「特別支援教育研修会」は、今年度初めて近隣市連携事業として新発田市・阿賀野市・胎内市の教育委員会と園・小学校にも案内を出し、多くの方からご参加いただいた。

「5歳児架け橋期研究保育協議会」の実際

5歳児がグループごとに、絵本のお話を題材に協同制作を進めている動画を視聴し、協議題に沿って話し合った。

「協議題」 『目的に向かって自ら考え、活動を進めていく子どもの姿は、小学校へどうつながっていくか』



- 数日間にわたって活動の様子を撮影した動画を視聴し、『目的に向かって自ら考え活動する子どもの姿と小学校へのつながり』について、「**幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿**」を共通の視点に話し合った。




「5歳児研究保育協議会」の実際

※ファシリテーションに使用したワークシート

令和7年度 せいろう幼稚園「5歳児架け橋期研究保育協議会」ワークシート

令和7年11月11日(火)

協議会テーマ『目的に向かって自ら考え、活動を進めていく子どもの姿は、小学校へどうつながっていくのか』

目的に向かって自ら考え、活動を進めていく子どもの姿	10の姿	小学校へのつながり
<p>視点 ①自分の思いを自分なりに言葉にし、相手の話を聞こうとしていたか。 ②友達と同じ目的に向かって、活動しようとしていたか。</p> <p>※ファシリテーションの手順</p> <p>①②の視点で、どのような子どもの姿が見られましたか。 動画をみて黄色い付箋に書いてください。</p> <p>②その姿は、10の姿のどこに当てはまりますか。</p> 	<p>①健康な心と体</p> <p>②自立心</p> <p>③協同性</p> <p>④道徳性・規範意識の芽生え</p> <p>⑤社会生活との関わり</p> <p>⑥思考力の芽生え</p> <p>⑦自然との関わり・生命尊重</p> <p>⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚</p> <p>⑨言葉による伝え合い</p> <p>⑩豊かな感性と表現</p>	<p>③その姿は、<u>小学校のどのような学習や場面</u>につながっていきますか。</p>
<p>【分かったこと】</p>		

「5歳児研究保育協議会」の実際（幼児教育センターだより）

令和7年11月吉日

聖籠町幼児教育センターだより

11月11日(火) せいろう幼稚園「5歳児研究保育協議会」

研修テーマ

人と関わることが心地よいと感じる子を目指して ～教師の援助と環境構成を探る～

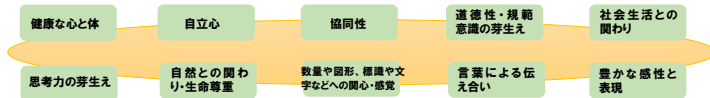
協議会テーマ

目的に向かって自ら考え活動を進めていく子どもの姿は、小学校へどうつながっていくか

- ①自分の思いを自分なりに言葉にし、相手の話を聞こうとしていたか
- ②友達と同じ目的に向かって、活動しようとしていたか



幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿



目的に向かって自ら考え、活動を進めていく子どもの姿

【折り合いをつける】

- 自分の思いを言う
 - ・自分なりの言葉
 - ・提案
- 相手の思いを聞く
 - ・思いやる
 - ・共感、相手意識
 - ・同意、賛同



小学校へのつながり

- ペア活動・グループ活動・縦割り班活動
- 係活動
- お楽しみ会
- 生活科
- 図画工作
- 学級活動
- 生活全般

【教師の支え】

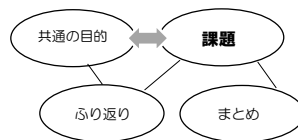
*個々の思いや考えを認めながら、バラバラだったイメージを整理し、共通のものにしていく

*子どもに親しみのある題材（絵本）を選定し、イメージを共有しやすくする

【共通のイメージ】

- 3人で一緒に発表
- 役割分担を決める
- 3人で1枚の設計図を描く

★目的が明確なので、自分たちで動く



相手はどんなことを考えたのか？

わかったこと(原文のまま)

- 学級や集団の中で、自分の意見と他者の意見に折り合いをつけてゴールを目指す力が育まれている。
- 「やりたい(意欲)」「できた(達成感)」が主体性につながる。
- 園でも小学校でも、“子どもの思いを出し切る場”の設定や“自分の思いを伝えることができる環境(安心感)”が大事。
- 自分の意見だけでは通らないという経験(トラブルも)が大事。
- 友達と思いを伝え合う活動・相手の思いを聞く活動が小中学校でもつながっていく。
- 相手を尊重できる子にするためには、まず大人の受けとめ・引き出し方が重要。いかに常に子どもをみているか。

～眼の前の子どもの声を聴き、最大限に尊重する～
『子ども(幼児)理解』

- ・子どもがどんなことに興味をもっているのか、どんなことに楽しさを感じているのか？
- ・子どもの“やってみたい！”という気持ちを引き出すために必要な援助と環境構成は？
- ・表情や仕草、行動など、言葉での表し方以外でどんな表現をしているか？



- ★『個々の子どもたちをしっかりと見とる』ことが“育ち”、そして“学び”につながる。
- ★園と小学校の職員が、共通の子どもの姿を見て一緒に考えていけると良い。それが“接続”となる。

新潟大学 教育実践学研究所 教授
中島先生より



「4歳児研究保育協議会」の実際（幼児教育センターだより）

令和7年6月吉日

聖籠町幼児教育センターだより

5月29日(木) せいろう幼稚園「4歳児研究保育協議会」

研修テーマ

人と関わることが心地よいと感じる子を目指して ～教師の援助と環境構成を探る～

協議会テーマ

主体性を育む環境構成と教師のかかわり

①自分のやりたいことができる環境だったか

②人と関わる心地良さを感じられるような教師のかかわりはどんなものがあったか

当日の遊び

『ウレタン積み木を使った遊び』『ねこごっこ』で楽しむ姿から

①自分のやりたいことができる環境だったか

素材

- *牛乳パックの罫い
- *布を使った屋根⇒ハリがあって壊れない
- *段ボールのついたて⇒自分たちで自由に動かせる
- ★個々のタイプ・遊び・仲間関係・時期によって罫いの種類や数を見極めて準備する

◎“自分たちで作った”“罫いたという思いをもつことが大事なタイプ”

◎罫われていけばいいタイプ

広さ(空間)

- ・邪魔されない
- ・罫われた中で、友達と自由に動ける

素材の属性

個数

- ・(ままとなど)物が多すぎないからこそ、じっくりと見立てて遊べる
- ・子どもが“欲しい”と思った時に、すぐに使えるように用意してある

高さ

- ・頭だけでも隠れることができる
- ・近くの子の遊びが見える(感じられる距離)
- ・周りの子どもそれぞれの場で何をしているかが見える
- ・座れば自分たちだけの空間となる

Good!

- ★子どもの関係性を見ながら場を作る
- ★今の時期は、2～3人で寄れる場を作ってあげることが必要

★楽しさの共有につながる

友達と同じ物

- *同じお面を身につける
- 一緒に楽しい・同じが楽しい



②人と関わる心地良さを感じられるような教師の関わりはどんなものがあったか



言葉かけ

語りかけ

- ・否定しない「いいね!」「やっっていいよ!」
- ・子ども同士のかかわり重視の語りかけ

認め・共感

子どもの声を拾い、繰り返す
「3人だけ」「いいね!」
⇒声や言葉にならない不安や楽しさ「本当はこうしたい」を言語化

仲間意識へ

一緒に遊んでいる友達の名前を声に出して言うことで仲間意識が持てるように

場の保障
「あの子どもたちのスペース」
友達とのつながり
「ほくたちは3人グループ!」

- ★子ども自身が“友達っていいな”と感じられる
- ★子ども自身が“自分たちだけ”という思いを感じる

Good!

～人とかかわることの心地よさを感じるということ～

教師の援助として…

- *子ども同士が、遊びを介して自然にかかわることを支援する発想を持つ
- *個々の遊びが面白くなる子ども同士でひかれ合い、かかわりが生まれてくる。そこにこそ心地よさが生まれる
- *子どもの自発的な遊びの中でこそ自己発揮でき、それに対する他者からの受け入れや認めを経験が、人とのかかわりに対して心地よさを感じることにつながる

まずは・・・“個々の遊びの充実”が大事である

中島教授より



「3歳児研究保育協議会」の実際（幼児教育センターだより）

令和7年7月吉日

聖籠町幼児教育センターだより

6月18日(水) せいろう幼稚園「3歳児研究保育協議会」

研修テーマ

人と関わることが心地よいと感じる子を目指して ～教師の援助と環境構成を探る～

協議会テーマ

安心感をもち自ら動き出す環境と教師のかかわり

①安心感をもち自ら動き出せる環境であったか

②人と関わる心地良さを感じられるような教師のかかわりはどんなものがあったか

当日の遊び

ままごと遊びを楽しむ姿から

安心感



【教師の存在】

【言葉・反応】

- ★安心できる声のトーン・話し方・表情
- 子どもが真似しやすい言葉 “モデリング”
「ジャジャーン！」
- 子どもがわかりやすい言葉
- 子どものワクワク感につながる言葉や反応
「3・2・1…」とカウントダウン
- 「うわあ〜！」と驚く など

【受け止め】

- ★子どもの動きに対する意味付け
“先生が喜んでくれた” “先生に受け止めてもらった”

→『嬉しい!』

『また見せたい!』

『もう1回!』

主体性

【環境】

【教師の位置】

- 全員を見渡せる位置
- 同じ場にいることで、「あそこに先生がいる」と、教師が見える安心感

【子どもがイメージしやすい自分で扱える教材】

- 弁当箱
- 五感を通じて感じた経験がある
- 身近

【コーナーの場所】

- 教師から見えないところでもう一度弁当を作ることで、「また先生が喜んでくれるかな」「今度は何を作ろうかな」というワクワク感
- コーナーが分かれていてゆったり遊べる

教師の意図的な環境の出し方

子どもが自ら動き出せる

<教師の存在と、日々の個々の受け止めが安心感につながる>

新潟大学 教育実践学研究所 講師
有井先生より

- *遊びに接点が生まれる傍らで『情動を共有』する
 - ・「自分対先生」「自分対友達」→他者と一緒に楽しんでいる瞬間
 - ・少し離れた場所から教師や友達のやることを見ている、笑いの瞬間が一緒
 - ・感謝苦悶の末、喜びを共有
- *教師のかかわりで、引き寄せられる子どもたち
- *友達がやっていることを真似しているようでも、その中で自分なりの楽しさを子どもたちは見つけている
- *表現を他者に伝えたいという思い
 - ここから言葉の学びが始まる
- *（コーナーの）場が離れていることの意味
 - 子どもが期待している思いに教師がこたえたり、言葉でつないであげる
- *時間と空間の作り方
 - ・情動が共有される空間
 - ・時間の流れにメリハリをつける動作や言葉
- *社会的な学びとしてのごっこ遊び（標榜）
 - ・作り手の喜び→ごっこ遊びを通して他者の気持ちを考える経験
 - ・食と楽しさ→実際に物を食べる時につながる
- *保育を見ている時の視点
 - ・「かわいさ」と思ふ瞬間を捉え、そこで何が起きていたのかを考える
 - ・いろいろな見方がある・大事な感覚



A yellow scroll graphic with a dark blue border and a dark blue shadow. The scroll is unrolled in the middle, with the top and bottom edges curled up. The text is centered on the unrolled part.

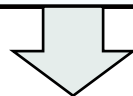
(3) 各園をつなぐ「オンライン研修」

各園をつなぐオンライン研修

より多くの先生が参加できるように、町内6園をつなぐオンライン研修会を実施。

実施方法

- 各学年の発達に応じてテーマを決め、
「よりよい教師のかかわりと環境構成」について話し合う。
※幼児教育アドバイザー兼架け橋期コーディネーターが
進行と指導
- 年9回 午後3時30分～4時45分開催。



※話し合われたことを紙面にまとめ、各園に配付し共有。

「令和7年度オンライン研修会」テーマ

町内6園の教諭で話し合うことで、指導のアイデアを得たり
悩みを共有したりすることができ、**横のつながりも深めている。**

実施月	対象	研修テーマ
5月	未満児	子どもと保護者との信頼関係のつくり方
6月	5歳児	プール指導で大事なこと
7月	全職員	月案、日案の記入の仕方
8月	全職員	子どもに受け入れやすい声のかけ方、主体性保育は何が大事？
9月	未満児	この遊びで何が育っている？ そのための環境、配慮は？①
10月	4歳児	困った行動をする子に対する対応方法
11月	全職員	保護者からのクレーム対応
12月	未満児	この遊びで何が育っている？ そのための環境、配慮は？②
1月	3歳児	困った行動をする子に対する対応方法

「オンライン研修後の配布資料」の実際

令和7年9月吉日

聖籠町幼児教育センターだより

8/27 町オンライン研修④【子どもに受け入れやすい声のかけ方・主体性保育って何が大事?】対象:全職員

『子どもが受け入れやすい保育者の言葉かけ』

笑顔で😊

安心できる存在だと感じ、子どもが心を開きやすくなる

子どもの気持ちに寄り添い
共感を示すことから始まる

名前を呼ぶ

自分が大切にされていると感じ、自己肯定感UP

★子どもの気持ちを言葉で表現

- ・共感:「悲しかったね」「つらかったね」
- ・受容:「大丈夫だよ」「そばにいるよ」
- ・代弁:感情がうまく言葉で表現できない子には、気持ちを代弁してあげる
- ・「～したい」気持ちの受け止め:「OOちゃんと遊びたいよね」「OOで遊びたいよね」

保育者の肯定的な言動は、周りの子どもたちだけでなく、他の保育者にも良い刺激となります!



★子どもの行動を肯定的にほめる

- ・具体的にほめる:「お片付けが上手にできたね」「ごはん全部食べられたね」
- ・頑張りを認める:「最後まであきらめずに頑張ったね」「難しいことに挑戦したね」と努力を認め励ます
- ・「できる」を増やす言葉:「きっとできるよ」「一緒にやってみよう」と、子どもの可能性を信じて励ます
- ・「ありがとう」を伝える:「ありがとう」「助かったよ」と感謝の気持ちを伝えることで、子どもの自己肯定感を高める

★安心感を与える言葉かけ

- ・安心感:「大丈夫だよ」「失敗しても大丈夫」
- ・寄り添う姿勢:「そばにいるよ」
- ・一緒に解決する姿勢:「一緒にやってみよう」「どうしたらできるかな?」
- ・見守る姿勢:「待っているよ」

なかなか切り替えができない子には、時間に余裕をもって声かけし、区切りをつけられるようにしましょう。



★一方的に話すのではなく、子どもの意見を聴き双方向のコミュニケーション

- ・目線を合わせる:自分の話を聴いてくれていると感じる
- ・意見を聞く:「どうしたい?」「何がしたい?」子どもに考えさせる
子どもの興味や関心を引き出すような質問をすることで、子どもの主体的な行動を促す
- ・繰り返す:子どもの言葉を繰り返すことで、自分の気持ちが理解されていると感じ、安心して話することができる
- ・具体的に伝える:「次はOOがあるよ(するよ)」など、次の見通しがもてるような声かけ

スキンシップ

愛情を伝え安心感を与えることができる

これらの言葉かけを意識することで、子どもは安心して過ごすことができ、自己肯定感を高め、積極的に行動できるようになる

保護者との連携

保護者から子どもの様子を聞き連携することで、より子どもに合った言葉かけができる

今回のオンライン研修では、『こんな時どういう声かけをしたらいいんだろう?』など、子どもへの声かけの場面で日頃悩んでいることについて、みんなで話し合いました。

注目行動が目立つ

- ・わざと大きな声を出す
- ・走り回る
- ・友達に手が出る
- ・友達が遊んでいるものを壊す など

その子にとっては、そういう行動をとることが、大人とのかかわり方になっているのかもしれませんが、子どもが示す注目行動に、周りが大きく反応しないことが有効なこともあります。注目行動が無い時に積極的にかかわり、「先生と一緒に遊んで楽しかった!」という思いから、良いかかわり方を伝えていきましょう。



なかなか伝わらない(理解力?)

- ・友達にイヤなことをして、「イヤがっているよ」と言ってもわからない
- ・親のこともよく叩いている

その子も持っている特性もあるかもしれませんが、上記の事例同様、自分の行動によって周りが反応するのが楽しいのかもしれませんが、『良いかかわりの積み上げ』をしていきましょう。年齢が低ければ低いほど、一人の遊びの時間を保障してあげ、「友達と」よりもまずは「先生と一緒に遊んで楽しかった」という思いをたくさん感じられるようにしましょう。そして、お家の方にもかかわり方を教えてあげましょう



幼児教育センターの主な取組

1. 幼児教育の質と指導力の向上

2. 幼保小の円滑な接続・連携

3. 幼児教育資料の作成と活用

4. 町の幼児教育の積極的な発信

5. 幼児教育アドバイザーの質の向上

2. 幼保小の円滑な接続・連携

- (1) 「代表者会議（校長・園長）」の開催
- (2) 園小の保育・授業参観と情報交換
- (3) 「聖籠町架け橋メッセージ」の効果検証
- (4) 町内全小学校教諭へ幼保小接続の伝達講習
- (5) 「架け橋期カリキュラム検討委員会」の開催（新規）
- (6) 架け橋期コーディネーターの小学校通年配置（新規）
- (7) 「架け橋期子育てフォーラム」の開催（新規）
- (8) 「聖籠町架け橋だより」の発行（新規）

(1) 代表者会議(校長・園長)の開催

代表者会議 【小学校長、町立・私立園長】

年2回開催 令和7年9月16日(火) 令和8年2月25日(水)

- 今年度の幼保小の接続・連携について共通理解と検討
- 「架け橋期カリキュラム」の自園・自校化の進捗状況等の確認
- 「聖籠町架け橋メッセージ」等の効果検証

(2)園小の保育・授業参観と情報交換

園小の保育・授業参観と情報交換

園教諭による
「新1年生の授業参観と情報交換」
(R7 4月)

○スタートカリキュラムの様子
を参観し、円滑な接続につ
いて話し合い。

小学校教諭による
「5歳児の保育参観と情報交換」
(R8 1月)

○自校に入学する5歳児の
学びや育ちを参観し、情
報交換

「5歳児の体験入学」
「新1年生保護者説明会」(R8 2月5日)

○全園・小で同日開催

園教諭による「新1年生の授業参観」の実際

小学校1年生授業参観シート

1年生の担任の先生は、園での育ちを引き継ぎ、授業で力を入れているところに○を付けてください。(○はいくつ付けても構いません)

聖籠町の「幼児期から小学校への接続に向けて育てたい力」をもとに、園・小で目指す姿を共有した授業参観

1年担任は、授業参観シートに「園での育ちを引き継ぎ、授業で力を入れているところ」に○を付け、園教諭に配付。

園の参観者の振り返り

園名・お名前

◎園で培った力が、授業でどう活かされていたか学んだことをお書きください。

◎情報交換の中で学んだことをお書きください。

園教諭は、それをもとに授業参観「園で培った力が授業でどう活かされていたか」「情報交換で学んだこと」を記入し、小学校へ送付。

新1年生授業参観後の「情報交換」の実際

園・小の学びや育ちの連続性や
架け橋メッセージの効果について
情報交換

参加者：1年生担任・旧5歳児担任
小学校と園の管理職等



園教諭の振り返りより



情報交換の内容を幼児教育
アドバイザーが紙面にまとめ、
園教諭の振り返りシートとともに
小学校へ送付し、園・小の円滑
な接続について共有。

情報交換会を通して、園と学校
でずれなく子どもたちが成長でき
るように、一人一人の“できる”
を共有することが大切だと学んだ。

また、自信と期待をもって小学
校生活を送るために「架け橋メッ
セージ」が存在することの意義を
知ることができた。

小学校教諭による「5歳児保育参観・情報交換」の実際

R7年度 保育参観シート

園名 せいろう幼稚園

○印は、架け橋期の5歳児の指導で特に力を入れているところ

重要可 幼児期から小学校への接続に向けて育てたい力

生活する力	つながる力	学ぶ力
<ul style="list-style-type: none"> 生活リズムを整える 身のまわりのことを自分でできる 清潔な生活を送る 安全な生活を送る 健康な生活を送る 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と遊ぶ 先生や友達と話を聴く 自分の話を聴かせる 友達と協力して遊ぶ 友達と仲良く遊ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の名前を呼ばれると返事をする 先生の話を聴く 先生の話を聴かせる 先生の話を聴かせる 先生の話を聴かせる

○架け橋期の5歳児の指導で大事にしていること

- ・友達と遊びや活動を進める中で、自分の考えを言葉にして伝えること。また、相手の考えを聞き受け止めることができるよう、教師も一緒に加わり、友達と一緒に活動する楽しさ・満足感を感じられるようにしている。
- ・様々な活動に意欲的に取り組み、自分もクラス・チームの一員として遊びや活動に参加できるように支えている。
- ・少し難しいと感じることも繰り返し取り組み、出来るようになった喜びや諦めないで取り組むことの大切さを感じられるようにしている。
- ・生活に見通しを持ち、自分なりに考えながら動くことができるように環境・教師の関わり方を考えている。(目で見てわかる環境・教師の伝え方)
- ・場に合った挨拶をすること・名前を呼ばれたら返事をするを繰り返し知らせている。
- ・遊びや生活の中で、文字や数に触れ、楽しみながら必要に応じて取り入れている。

○今後の課題 (まだ不十分なところ)

- ・気持ちの切り替え、場面を感じ取って動く力。
- ・相手の話を聞き、受け止める力。
- ・良いこと悪いことを判断する力。(人の嫌なことはしない・言わない)

小学校教諭が、自校に入学する園児のいる園へ参観に行き、5歳児の学びや育ちを理解し、園小で情報交換を行った。

参観者：教務主任・1年生担任・特別支援担当・養護教諭

5歳児担任が、保育参観シートに、「架け橋期の指導で大事にしていること」「今後の課題」を記入し、小学校教諭に配付。小学校教諭はそれをもとに参観し、その後情報交換



(3)「聖籠町架け橋メッセージ」の効果検証

「聖籠町架け橋メッセージ」の効果検証

「聖籠町架け橋メッセージ」とは

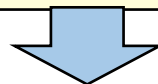
○5歳児担任が新1年生担任に、「一人一人の子どもが一番の伸び（小学校でも引き続き伸ばしてほしいところ）」を記入して渡す。

※指導要録の一部を活用して打ち込めるシステムを幼児教育センターで作成し、令和5年度から各園で活用。



○新1年生担任が「架け橋メッセージ」を学級経営に活用。

※4月初めに、架け橋期コーディネーター兼幼児教育アドバイザーが各小学校の新1年生担任に、架け橋メッセージの活用について説明



○4月後半に、各小学校で「園教諭による新1年生授業参観と架け橋メッセージをもとにした情報交換」を行う。

※継続して効果検証していく

架け橋メッセージの主な成果

(1年生担任より)



蓮野小

- ・ 引き継ぎ文書にはどうしてもマイナス面が多くなるが、架け橋メッセージは個々の得意なことなどプラス面が書いてあるのでありがたい。子どもたちに対する心持ちも違う。
- ・ 1年生を初めて受け持つが、架け橋メッセージを見てここまで力をつけていると知り、自分自身の考え方（1年生だから全て教えなければ）が変わった。子どもたちが持っている力をさらに伸ばしていきたい。

亀代小

- ・ こういう育ちをしてきた子どもたちなのだと、深く受け止めている。
- ・ はじめの1歩ではなく、その前の地点が大事であり、それが無いと1にはならない。この1年で、そこから少しずつでも伸ばしていきたい。



架け橋メッセージの主な成果

(1年生担任より)



山倉小

- ・ 子どものよいところを見つけるためのきっかけとなり、重宝している。そこを伸ばしていきたい。
- ・ メッセージをもらうことで、「その通り」と思う部分と「もっとできている（入学後の伸び）」という気付きにもつながった。
- ・ 子どもをほめたり自信を持たせたり、学校に行きたいと思えるようにしたりして意識している。
- ・ 今までより、強く園小のつながりを感じる。

(園長先生より)

「架け橋期メッセージ」が1年担任の先生たちの身近にあることで、子ども理解につながっていることを感じた。指導要録では伝わらない個々の良さを伝えられる素敵な素敵な取り組みでとても良いと思った。

(4) 町内全小学校教諭へ幼保小接続の伝達

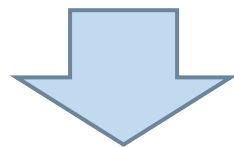
町内全小学校教諭へ幼保小接続について伝達講習

4月初め 「町教職員全員研修会」

幼児教育センター長から、町内全小学校教諭へ伝達講習を行った。

(内容)

「架け橋プログラム」「聖籠町架け橋メッセージ」
「架け橋期カリキュラムの自校化・自園化」など
幼保小接続の意義と学校全体で取り組む大切さ



小学校全体で円滑な接続の意義を理解して新一年生を迎えている

令和7年度新規

(5) 「架け橋期カリキュラム検討委員会」の開催

「架け橋期カリキュラム」の自園・自校化

令和5年度

◎幼児教育センターで各園・小学校の意見を取り入れながら「**聖籠町架け橋期カリキュラム(案)**」を作成。



令和6年度

◎「**聖籠町架け橋期カリキュラム(案)**」を、各園・小学校で実践しながら加除修正し、「**架け橋期カリキュラム自園・自校版**」を作成。

○関係者協議会(9月・令和7年3月)で、各園長・小学校長が各園・小学校のカリキュラムの進捗状況と円滑な接続について検討。

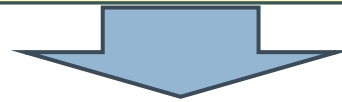
「架け橋期カリキュラム検討委員会」の開催

令和7年度

◎「聖籠町架け橋期カリキュラム検討委員会」を立ち上げ、
園と小学校が一層連携して架け橋期の教育を推進。

○委員：各園・小学校の5歳児担任・幼児部主幹・1年担任等

○年2回開催 令和7年9月18日(木) 令和8年2月10日(火)



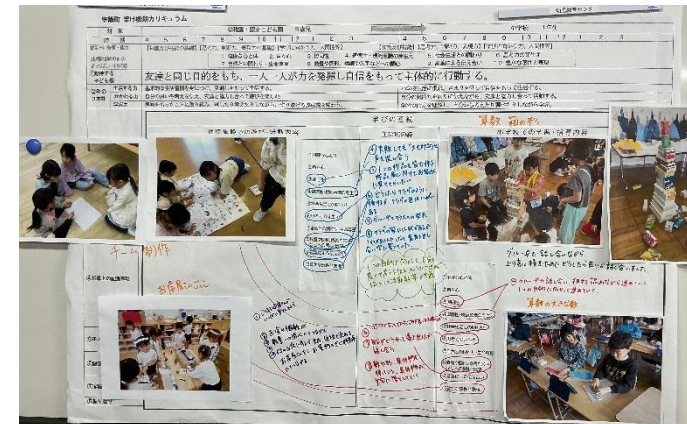
○内容

- ①架け橋プログラムの推進について共通理解。
- ②聖籠町「架け橋期に期待する子ども像～友達と目的をもち、一人一人が力を発揮し自信をもって主体的に行動する～」姿が見られる写真を持ち寄り、共通して大事にすること、園で培われた力を小学校でどのように生かしていくか協議。

「架け橋期カリキュラム検討委員会」の実際



- ① 聖籠町の「架け橋プログラムの推進」について説明。
文科省の「遊びは学び 学びは遊び “やってみたいが学びの芽”」の動画視聴。
- ② 「架け橋期コーディネーターとして感じた園小接続で大切なこと」について
小学校配置の架け橋期コーディネーター(元副園長)より説明。
- ③ 校区ごとに分かれて、各園・小学校から持ち寄った活動の写真をもとに、園小の学びのつながりや共通して大事にすることについて話し合った。



令和7年度新規

(6) 架け橋期コーディネーターの 小学校通年配置

架け橋期コーディネーターの小学校通年配置

◎町立幼稚園の副園長を今年度架け橋期のコーディネーターとして山倉小学校に配置

○1学年教室に入り、小学校の教育や実践について理解するとともに、園との発達や学びの連続性について共有する。

○架け橋期カリキュラムの推進に向けて、センターと連携して園小の接続期の大切なことを伝達する。



※蓮野小・亀代小も毎月2回ずつ訪問し、1年生の授業を参観。参観後、参観シートを作成して円滑な接続について情報交換を行った。

令和7年度新規

(7)「架け橋期子育てフォーラム」の開催

「架け橋期子育てフォーラム」の開催

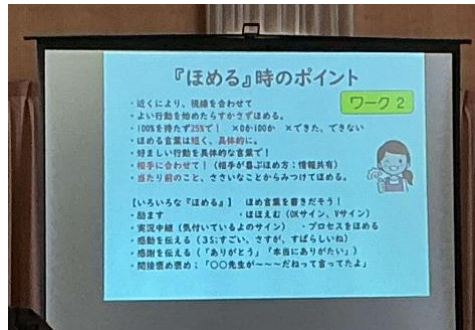
「聖籠町架け橋期子育てフォーラム ～子育ての視点をアップデートしてみませんか～」

令和7年11月8日(土) 10:00～11:30

聖籠町 町民会館 多目的ホール

- 講 師：中島崇幼児教育センター長
- 参加者：幼保小の保護者や教職員
- 内 容：町の架け橋プログラムについて紹介
子育てのヒントの講話
参加者同士が子育てについて話し合い

「架け橋期子育てフォーラム」の実際



- 参加者：園保護者 5名・小学校保護者 1名
園教諭 15名・教育委員会 4名
- 預かり保育：4名

子どものできないことを指摘する「否定的な言葉」を、努力や工夫を認める「肯定的な言葉」に置き換えることで子どもを見る視点が変わり、子どもの自信を支える力につながっていくことを確認し合うことができた。



参加者の感想

見方の幅が広がり、心が柔軟になった。参加して良かった。

『ほめる』時のポイント

ワーク 2

- ・近くにより、視線を合わせて
- ・よい行動を始めたら ほめる。
- ・100%を待たず ×か100か ×できた、できない
- ・ほめる言葉は 。
- ・好ましい行動を具体的な言葉で！
- ・ (相手が喜ぶほめ方；情報共有)
- ・ 、ささいなことからみつけてほめる。

【いろいろな『ほめる』】 ほめ言葉を書きだそう！

10個以上書き出そう！

○ マインドマップをつくろう

ワーク 4

幼児教育センターの取組

1. 幼児教育の質と指導力の向上

2. 幼保小の円滑な接続・連携

3. 幼児教育資料の作成と活用

4. 町の幼児教育の積極的な発信

5. 幼児教育アドバイザーの質の向上

3. 幼児教育資料の作成と活用

令和7年度新規

「幼児教育センターだより」の発行

「幼児教育センターだより」の発行

アドバイザーが、園訪問研修やオンライン研修、合同研修会の内容や指導についてまとめ、園教諭に配付。



園教諭の指導力向上に活かしてもらう

これまでの発行内容

- 【①4月】幼児教育センターの役割
- 【②5月】町オンライン研修「子どもと保護者との信頼関係の作り方(0~2歳児)」
- 【③6月】「せいろう幼稚園4歳児研究保育協議会」まとめ
- 【④6月】町オンライン研修「プール指導で大事なこと(5歳児)」
- 【⑤7月】「せいろう幼稚園3歳児研究保育協議会」まとめ
- 【⑥7月】町オンライン研修「日案・月案の記入の仕方(全職員)」

これまでの発行内容

- 【⑦8月】町オンライン研修「子どもに受け入れやすい声のかけ方・主体性保育って何が大事？(全職員)」
- 【⑧9月】町オンライン研修「この遊びで何が育ってる？そのための環境と配慮は？」
(0～2歳児)」
- 【⑨10月】町オンライン研修「困った行動をする子に対する対応方法(4歳児)」
- 【⑩11月】「せいろう幼稚園5歳児架け橋期研究保育協議会」まとめ
- 【⑪11月】町オンライン研修「保護者の声を園運営に生かす(全職員)」
- 【⑫12月】町オンライン研修「この遊びで何が育ってる？そのための環境と配慮は？」
(0～2歳児)」
- 【⑬1月】町オンライン研修「進級に向けて大事にしていること(3歳児)」

「幼児教育センターだより⑦」の実際

聖籠町幼児教育センターだより

8/27 町オンライン研修④【子どもに受け入れやすい声のかけ方・主体性保育って何が大事？】対象:全職員

『子どもが受け入れやすい保育者の言葉かけ』

笑顔で😊

安心できる存在だと感じ、子どもが心を開きやすくなる

子どもの気持ちに寄り添い共感を示すことから始める

名前を呼ぶ

自分が大切にされていると感じ、自己肯定感UP

★子どもの気持ちを言葉で表現

- ・共感:「悲しかったね」「つらかったね」
- ・受容:「大丈夫だよ」「そばにいるよ」
- ・代弁:感情がうまく言葉で表現できない子には、気持ちを代弁してあげる
- ・「～したい」気持ちの受け止め:「OOちゃんと遊びたいよね」「OOで遊びたいよね」

保育者の肯定的な言動は、周りの子どもたちだけでなく、他の保育者にも良い刺激となります！



★子どもの行動を肯定的にほめる

- ・具体的にほめる:「お片付けが上手にできたね」「ごはん全部食べられたね」
- ・頑張りを認める:「最後まであきらめずに頑張ったね」「難しいことに挑戦したね」と努力を認め励ます
- ・「できる」を増やす言葉:「きっとできるよ」「一緒にやってみよう」と、**子どもの可能性を信じて**励ます
- ・「ありがとう」を伝える:「ありがとう」「助かったよ」と**感謝の気持ちを伝える**ことで、子どもの自己肯定感を高める

★安心感を与える言葉をかける

- ・安心感:「大丈夫だよ」「失敗しても大丈夫」
- ・寄り添う姿勢:「そばにいるよ」
- ・一緒に解決する姿勢:「一緒にやってみよう」「どうしたらできるかな?」
- ・見守る姿勢:「待っているよ」

なかなか切り替えができない子には、時間に余裕をもって声かけし、区切りをつくれるようにしましょう。



★一方的に話すのではなく、子どもの意見を聴き双方向のコミュニケーション

- ・目標を合わせる:自分の話を聞いてくれていると感じる
- ・意見を聞く:「どうしたい?」「何がしたい?」子どもに考えさせる
子どもの興味や関心を引き出すような質問をすることで、子どもの**主体的な行動**を促す
- ・繰り返す:子どもの言葉を繰り返すことで、自分の気持ちが理解されていると感じ、安心して話すことができる
- ・具体的に伝える:「次はOOがあるよ(するよ)」など、**次の見通し**がもてるような声かけ

スキンシップ

愛情を伝え安心感を与えることができる

これらの言葉かけを意識することで、子どもは**安心して**過ごすことができ、**自己肯定感**を高め、**積極的**に行動できるようになる

保護者との連携

保護者から子どもの様子を聞き連携することで、より子どもに合った言葉かけができる

今回のオンライン研修では、『こんな時どういう声かけをしたらいいんだろう?』など、子どもへの声かけの場面で日頃悩んでいることについて、みんなで話し合いました。

注目行動が目立つ

- ・わざと大きな声を出す
- ・走り回る
- ・友達に手が出る
- ・友達が遊んでいるものを壊す など



その子にとっては、そういう行動をとることが大人とのかかわり方になっているのかもしれませんが、**子どもが示す注目行動に、周りが大きく反応しないことが有効なこともあります。**

注目行動が無い時に積極的にかかわり、「先生と一緒に遊んで楽しかった!」という思いから、**良いかかわり方**を伝えていきましょう。



なかなか伝わらない(理解力?)

- ・友達にイヤなことをして、「イヤがっているよ」と言ってもわからない
- ・親のこともよく叩いている



その子も持っている特性もあるかもしれませんが、上記の事例同様、自分の行動によって周りが反応するのが楽しいのかもしれませんが、『**良いかかわりの積み上げ**』をしていきましょう。**年齢が低ければ低いほど、一人の遊びの時間を保障してあげ、「友達と」よりもまずは「先生と一緒に遊んで楽しかった」という思いをたくさん感じられるように**しましょう。そして、お家の方にもかかわり方を教えてあげましょう



幼児教育センターの取組

1. 幼児教育の質と指導力の向上

2. 幼保小の円滑な接続・連携

3. 幼児教育資料の作成と活用

4. 町の幼児教育の積極的な発信

5. 幼児教育アドバイザーの質の向上

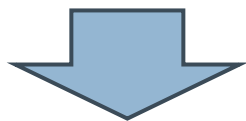
4. 町の幼児教育の積極的な発信

令和7年度新規

「聖籠町架け橋だより」の発行（年3回）

「聖籠町架け橋だより」の発行（年3回）

◎架け橋プログラムの周知と推進のため 「聖籠町架け橋だより」の作成・配付



- 町の架け橋プログラムの取組を周知するために、架け橋期カリキュラム検討委員会、園・小・中の合同研修会の様子、幼児期から小学校への接続に向けて育てたい力等について掲載。
- 年3回、園（3～5歳児）・小学校（1年生）の保護者に配付。
園（0～2歳児）・小学校（2～6年生）の保護者、園・小学校教諭にメール配信。町のホームページに掲載。

～幼児教育から小学校教育へ 学びと育ちをつなぐ～

架け橋だより



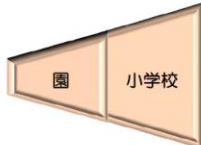
令和7年度 第1号

(令和7年9月発行)

聖籠町教育委員会 教育未来課
幼児教育センター

～幼保小の架け橋プログラム～

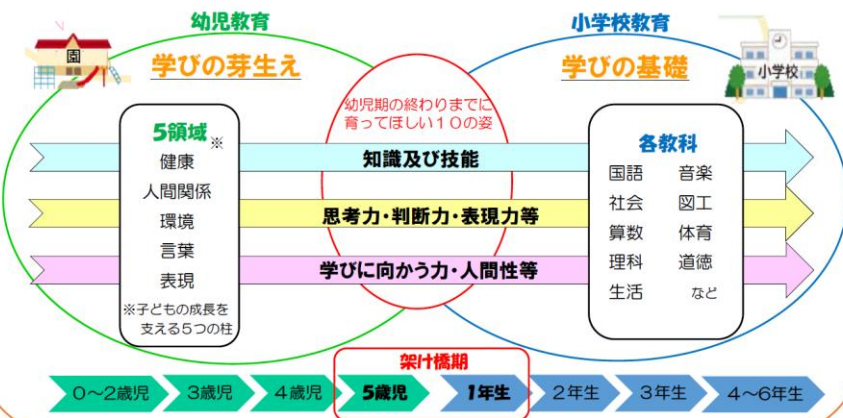
幼児教育と小学校教育を円滑に接続するための取り組みです。「架け橋期」を対象に、幼児教育と小学校教育の連携を深め子どもたちがスムーズに小学校生活へ移行できるよう支援するものです。このプログラムは、子どもたちの学びや生活の基盤を育むことを目指し、主体的・対話的で深い学びの実現を促進します。



園での成長をしっかりと受け止めて小学校教育をスタートさせています。

「架け橋期」ってなに？

幼児期の遊びを通して育まれた資質・能力は、引き続き小学校教育においても高められていきます。特に5歳児から小学校1年生の2年間は、生涯にわたる学びや生活の基盤を作る時期で「架け橋期」とよばれます。



聖籠町では...

★架け橋リーフレット「未来を創る子どもの育成」

令和6年4月に3～5歳児、令和7年4月に新3歳児の全家庭に配布



町のホームページ『幼児教育センター』に掲載

町立・私立園合同研修会の実施

町立せいらう幼稚園では、大学教授を指導者に招いて3歳児・4歳児・5歳児研究保育協議会を開催しています。遊びや活動の様子を撮影した動画を視聴し、環境構成や教師のかかわりについて意見交換を行います。特に5歳児架け橋期研究保育協議会は、園だけではなく小・中学校の職員、近隣市町村の職員も参加し、園での学びや育ちが小学校へどうつながっていくかに向けて話し合いを行います。



「聖籠町架け橋期カリキュラム」検討委員会

「架け橋期カリキュラム」ってなに？

幼児教育（5歳児）と小学校教育（1年生）の円滑な接続を図るための具体的な方策を「架け橋期カリキュラム」とよび、地域の幼児教育と小学校教育の関係者が連携して、教育方法の充実・改善にあたります。

令和6年度、園長と小学校長が3つの小学校区に分かれて架け橋期カリキュラムの検討を行い、どのように連携しているか、また教師のかかわり等について話し合いました。



【令和7年度】

令和7年度は、「聖籠町架け橋期カリキュラム検討委員会」を立ち上げ、5歳児担任や小学校1学年主任等が集まり、幼保小で共通して大事にすることや、園で培われた力を小学校でどのように活かしていくかについて話し合います（年2回）。



【令和7年度事業】

★架け橋期子育てフォーラムの開催

＊日時：令和7年11月8日（土）10時～11時半

＊場所：聖籠町市民会館 小ホール（保育ルーム有）

＊参加費：無料

＊講師：聖籠町幼児教育センター長 中島 崇

＊テーマ：『子育ての視点をアップデートしてみませんか』

＊内容：町の架け橋プログラムについて紹介

ワークを通した参加者同士の交流

※参加申込については、後日、園・小学校を通してお知らせいたします

多数の皆さんのお越しをお待ちしています！

★架け橋だよりの発行（年3回）

架け橋期カリキュラム検討委員会、園小での公開保育や公開授業、園小での子どもたちの姿を掲載し、町広報誌やHPにも掲載予定。

★架け橋期コーディネーターの配置

町立幼稚園の元副園長を山倉小学校に配置。1学年に入り、小学校の実践や教育方法を理解するとともに、子どもの発達や学びの連続性について共有。町内の他の2小学校も定期的に訪問し、円滑な接続について情報交換を実施。

架け橋だより



令和7年度 第2号
(令和7年12月発行)

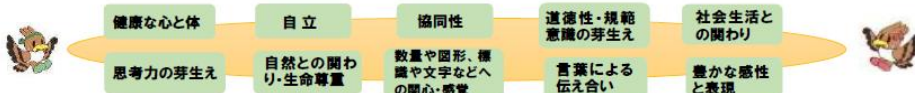
聖籠町教育委員会 教育未来課
幼児教育センター

せいらう幼稚園「5歳児架け橋期研究保育協議会」

11月11日(火)町立せいらう幼稚園において、5歳児架け橋期研究保育協議会を開催しました。活動の様子を撮影した動画を視聴し、『目的に向かって自ら考え活動を進めていく子どもの姿は、小学校へどうつながっていくか』という協議会テーマに基づき、園だけではなく小・中学校の職員、近隣市町村の職員も参加して話し合いを行いました。また、新潟大学教職大学院の中島伸子教授を指導者に招き、実践と理論とを結び付けたご指導をしていただきました。町内の学校園職員はもとより、町外から参加した職員にとっても有意義な学びの会となりました。



幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿 (この姿を共通の視点として話し合った)



目的に向かって自ら考え、活動を進めていく子どもの姿



『チームで相談して物語を選び立体装飾を作ろう』

【思いを伝え合う力】

- 自分の思いを伝える
 - 相手の思いを聞く
 - ・提案する
 - ・思いやる
 - ・共感する
- 〈折り合いをつける〉

【共通の目的】

- イメージ・目的を共有
 - 役割分担をする
 - 協力して設計図・作品作り
- 〈目的が明確なので自分たちで動く〉

【教師の支え】

*個々の思いや考えを認めながらイメージを整理し、共通のものに。
*子どもに親しみのある題材(絵本)を選定し、イメージを共有しやすく。

小学校へのつながり



【考えを伝え合う力】【共通の目的】

- ペア活動・グループ活動
- 縦割り班活動
- 生活科・図画工作
- 学級活動・お楽しみ会
- 係活動
- 生活全般

〈自分たちの意見に折り合いをつけてまとめていく〉
〈目的に向かって協力して活動する〉

～新潟大学教職大学院 中島伸子教授より～

目の前の子どもを聞き、最大限に尊重する『子ども理解』が大切

- ・子どもがどんなことに興味をもっているか、どんなことに楽しさを感じているか。
- ・子どもの“やってみよう!”という気持ちを引き出すために必要な援助と環境構成は、表情や仕草、行動など、言葉での表し方以外でどんな表現をしているか。



- ★『一人一人の子どもたちをしっかりと見とる』ことが『育ちと学び』につながる。
- ★園と小学校の職員が、共通の子ども姿を見て一緒に考えていくことが『円滑な接続』となる。

9/18 「聖籠町架け橋期カリキュラム検討委員会」

各園の5歳児担任・幼児部主幹、各小学校の1年生主任等が集まり、園と小学校の学びのつながりについて話し合いを行いました。町の目指す子ども像である『友達と同じ目的を持ち、一人一人が力を発揮し自信をもって主体的に行動する』姿が発揮されている活動写真を持ち寄り、学区ごとに分かれて園小の学びの連続性について確認しました。



11/8 「架け橋期子育てフォーラム」

～子育ての視点をアットテートしてみませんか～



町民会館において、中島崇幼児教育センター長を講師に、『架け橋期子育てフォーラム』を開催しました。意見を出し合いながら参加者同士が交流を回り、和やかな会となりました。

子どものできないことを指摘する「否定的な言葉」を、努力や工夫を認める「肯定的な言葉」に置き換えることで子どもを見る視点が変わり、子どもの自信を支える力につながっていくことを、確認し合うことができました。

参加者の感想

見方の幅が広がり、心が柔軟になった。参加して良かった。



架け橋期コーディネーターの願い

～幼児期から小学校への接続に向けて育てたい力～

【基本的な生活習慣を身につけ、自分のことは自分でやろうとする力】

- ・「あいさつ」や「返事」はコミュニケーションの第一歩です。大人が手本となり、率先して取り組みましょう。
- ・集団生活では、自分のことは自分で行い、ルールや決まりを守って生活していきます。「待つ」「がまんする」「気持ちを切り替える」という経験を通して『自己コントロール力』を育てていきましょう。

【自分の思いや考えを伝え合いの良さを認め合い、友達と協力する力】

- ・『ふわふわ言葉』を大人が積極的に使い、「互いの良さ探し」を通じて心の満足感を得させながら『かかわる力』を伸ばしていきます。

【興味・関心をもったことに進んで取り組み、試したり考えたりしながら「わかった」「できた」という達成感を味わう力】

- ・様々な経験や遊びを通して試行錯誤することが、学習での意欲や理解につながります。



幼児教育センターの取組

1. 幼児教育の質と指導力の向上

2. 幼保小の円滑な接続・連携

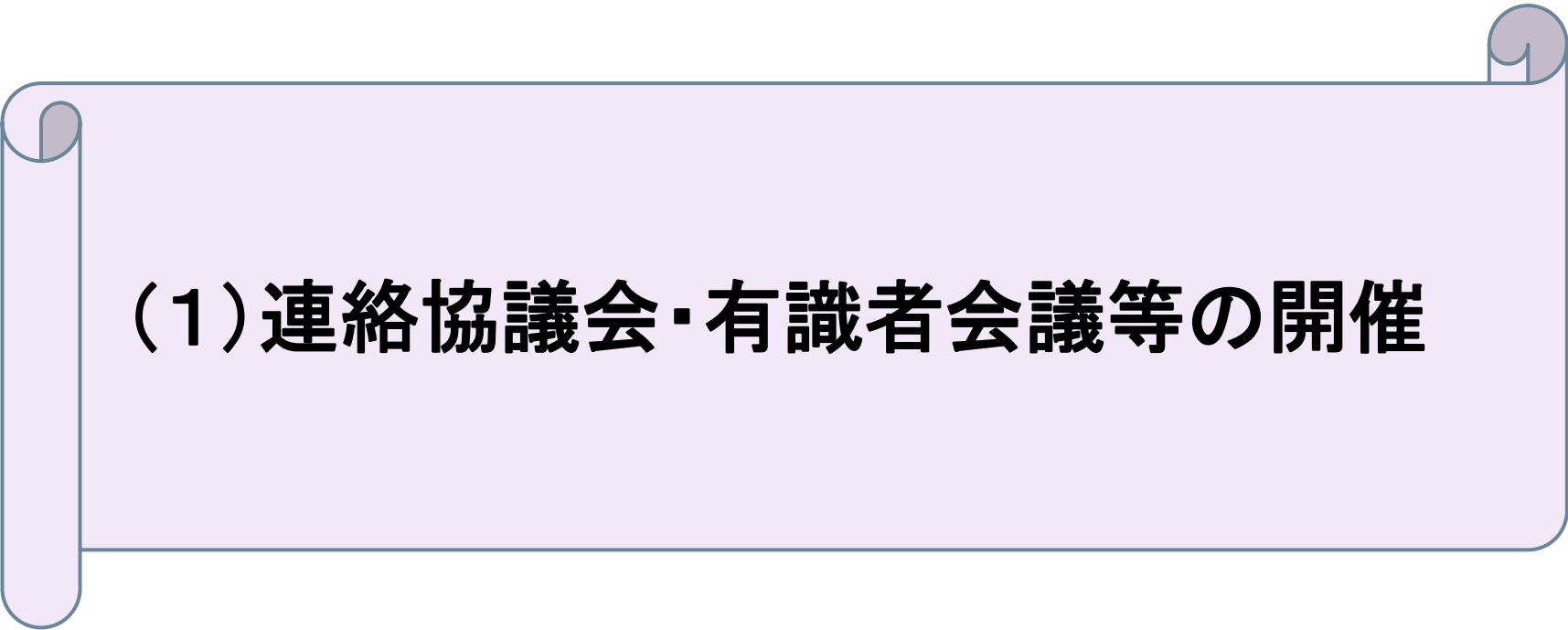
3. 幼児教育資料の作成と活用

4. 町の幼児教育の積極的な発信

5. 幼児教育アドバイザーの質の向上

5. 幼児教育アドバイザーの質の向上

- (1) 連絡協議会・有識者会議等の開催**
- (2) 研修会や意見交換会への参加**



(1) 連絡協議会・有識者会議等の開催

『幼保小の架け橋プログラム促進事業』の推進にあたり、「連絡協議会」「有識者会議」「代表者会議」「園長会」を開催し、指導・助言を受ける。

会 議	目 的 と 構 成
連絡協議会 (年2回)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 幼児教育アドバイザーの質の向上 ● 大学教授、新潟市教委指導主事、近隣市立小学校教頭、町立幼稚園長、事務局で構成
有識者会議 (年1回)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 架け橋プログラム促進事業についての進捗状況及び成果と課題の共有、助言 <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園教諭、保育教諭の指導力向上 ・ 町立幼稚園・私立認定こども園と小学校との円滑な接続 ・ 幼児教育の積極的な発信 ● 大学関係者、県教委指導主事、近隣市教委指導主事、近隣小学校長代表、幼稚園園長代表、保護者代表、事務局等で構成
代表者会議 (年2回)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 町立幼稚園・私立認定こども園・私立保育園と小学校との連携・接続 <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度の幼児教育の取組について共通理解と意見交換 ・ 架け橋プログラムと架け橋期カリキュラムの検討 ● 小学校長・園長・事務局で構成
園長会 (年1回)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 園同士の連携を深める <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度の取組の共通理解と園運営について意見交換 ● 町立幼稚園長、私立認定こども園長、私立保育園長、事務局で構成

諸会議の構成（敬称略）

連絡協議会

- ① 新潟大学教育実践学研究科教授……………中島伸子
- ② 新潟市教育委員会指導主事……………荒澤寛美
- ③ 新発田市立二葉小学校教頭……………中島美千子
- ④ 聖籠町立せいろう幼稚園長……………西村美紀
- ⑤ 聖籠町教育未来課参事・幼児教育センター長……………中島 崇 <事務局>
- ⑥ 聖籠町幼児教育センター幼児教育アドバイザー兼架け橋期コーディネーター…若月美保 <事務局>
- ⑦ 聖籠町幼児教育センター幼児教育アドバイザー兼架け橋期コーディネーター…地主浩美 <事務局>
- ⑧ 聖籠町幼児教育センター幼児教育アドバイザー兼架け橋期コーディネーター…鈴木裕子 <事務局>

有識者会議

- ① 新潟医療福祉大学健康スポーツ学科教授……………脇野哲郎
- ② 県教育庁義務教育課指導第2係指導主事……………長谷川宏之
- ③ 新発田市教育委員会教育センター指導主事……………松井隆夫
- ④ 新発田市立外ヶ輪小学校長……………角 直浩
- ⑤ 新潟市立江南小学校長……………藤田 滋
- ⑥ 新潟市立新津第一幼稚園長……………樋口泰子
- ⑦ 保護者代表……………高橋真弓
- ⑧ 聖籠町教育長……………近藤 朗
- ⑨ 聖籠町教育未来課参事・幼児教育センター長……………中島 崇 <事務局>
- ⑩ 聖籠町教育未来課副参事・指導主事……………阿部 香 <事務局>
- ⑪ 聖籠町子ども家庭センター主任……………南場優子 <事務局>
- ⑫ 聖籠町幼児教育センター幼児教育アドバイザー兼架け橋期コーディネーター…若月美保 <事務局>
- ⑬ 聖籠町幼児教育センター幼児教育アドバイザー兼架け橋期コーディネーター…地主浩美 <事務局>
- ⑭ 聖籠町幼児教育センター幼児教育アドバイザー兼架け橋期コーディネーター…鈴木裕子 <事務局>

諸会議の構成（敬称略）

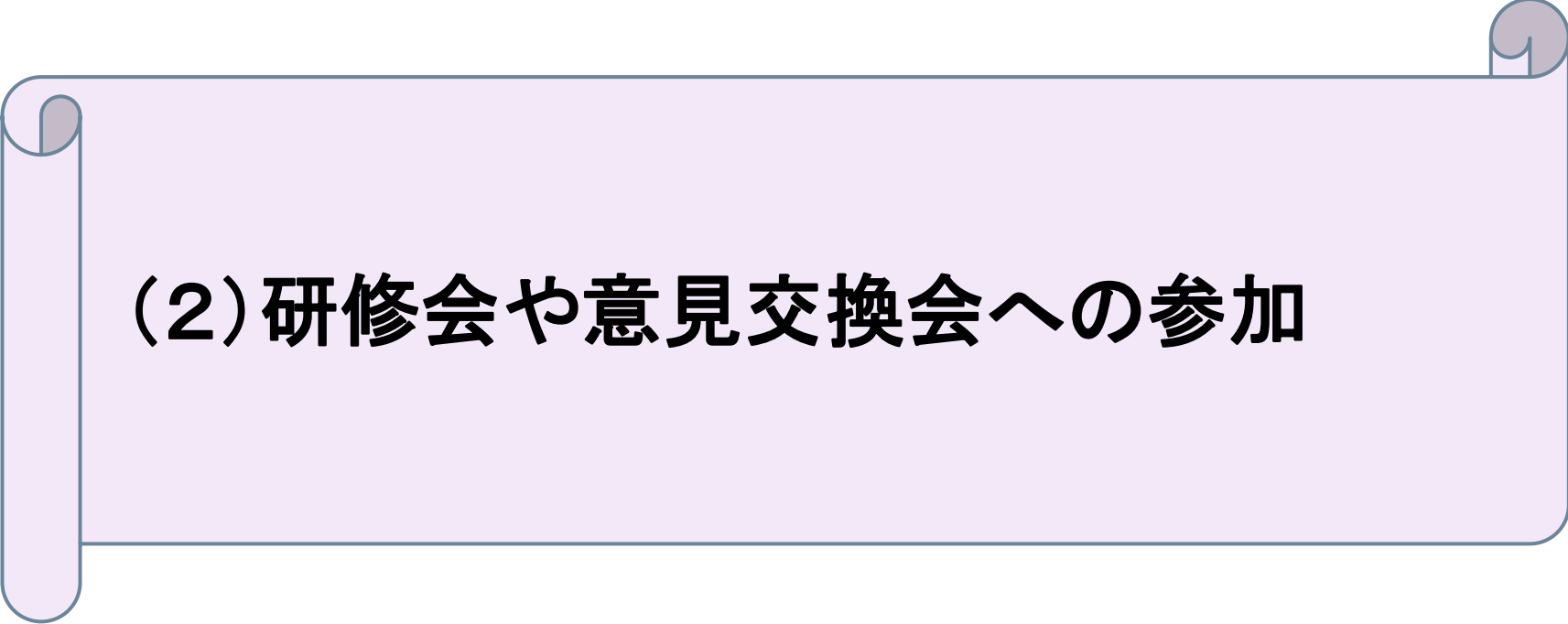
代表者会議

- ① 聖籠町立せいろう幼稚園長……………西村美紀
- ② 社会福祉法人真心福祉会 ハーモニーこども園長……………高橋智恵子
- ③ 社会福祉法人真心福祉会 ほしぞらこども園長……………渡邊文江
- ④ 社会福祉法人真心福祉会 なないろこども園長……………本間千賀子
- ⑤ 社会福祉法人親永会 聖籠はじめ保育園長……………三國 薫
- ⑥ 社会福祉法人郁心会 みんなの森どんぐり保育園長……………嶋津美和子
- ⑦ 聖籠町立蓮野小学校長……………内山谷寿夫
- ⑧ 聖籠町立山倉小学校長……………臼井政之
- ⑨ 聖籠町立亀代小学校長……………伊藤健文
- ⑩ 聖籠町立山倉小学校架け橋期コーディネーター……………齊藤和美
- ⑪ 聖籠町教育未来課参事・幼児教育センター長……………中島 崇 <事務局>
- ⑫ 聖籠町教育未来課副参事・指導主事……………阿部 香 <事務局>
- ⑬ 聖籠町教育未来課特別支援・就学担当指導主事……………戸川しげ子<事務局>
- ⑭ 聖籠町子ども家庭センター主任……………南場優子 <事務局>
- ⑮ 聖籠町幼児教育センター幼児教育アドバイザー兼架け橋期コーディネーター…若月美保 <事務局>
- ⑯ 聖籠町幼児教育センター幼児教育アドバイザー兼架け橋期コーディネーター…地主浩美 <事務局>
- ⑰ 聖籠町幼児教育センター幼児教育アドバイザー兼架け橋期コーディネーター…鈴木裕子 <事務局>

諸会議の構成（敬称略）

園長会

- ① 聖籠町立せいろう幼稚園長……………西村美紀
- ② 社会福祉法人真心福祉会 ハーモニーこども園長……………高橋智恵子
- ③ 社会福祉法人真心福祉会 ほしぞらこども園長……………渡邊文江
- ④ 社会福祉法人真心福祉会 なないろこども園長……………本間千賀子
- ⑤ 社会福祉法人親永会 聖籠はじめ保育園長……………三國 薫
- ⑥ 社会福祉法人郁心会 みんなの森どんぐり保育園長……………嶋津美和子
- ⑦ 聖籠町教育未来課参事・幼児教育センター長……………中島 崇 〈事務局〉
- ⑧ 聖籠町幼児教育センター幼児教育アドバイザー兼架け橋期コーディネーター…若月美保 〈事務局〉
- ⑨ 聖籠町幼児教育センター幼児教育アドバイザー兼架け橋期コーディネーター…地主浩美 〈事務局〉
- ⑩ 聖籠町幼児教育センター幼児教育アドバイザー兼架け橋期コーディネーター…鈴木裕子 〈事務局〉



(2) 研修会や意見交換会への参加

研修会や意見交換会への参加

研修会や意見交換会を通して自己研鑽に努める。また、参考となる指導や他県市町村の動向を知り、広い視野で町の幼児教育を推進していく。

- 文科省 幼児教育推進体制の活用事業意見交換会
- 文科省 架け橋期コーディネーター情報交換会
- 新潟県幼保小架け橋センター市町村担当者連絡会議
- 新潟県幼保小架け橋センター主催オンライン研修会
- 新潟大学附属幼稚園研究会
- 下越地区幼保小合同研修会

令和8年度の幼児教育の充実に向けて

令和7年度から文科省の「幼児教育推進体制を活用した幼保小の架け橋プログラム推進事業」に取り組んできました。

令和8年度も、継続して幼児教育の質の向上と幼保小の架け橋プログラムの推進に力を入れていきます。よりよい活動となるよう、ぜひ忌憚のないご意見をお願いいたします。

令和8年度の3つの柱

1. 架け橋プログラムの推進
2. 家庭・近隣市との連携の強化
3. 指導力向上に向けた研修の充実

令和8年度

1. 架け橋プログラムの推進

(1) 小学校へ架け橋期コーディネーターの配置

(副園長等を2つの小学校へ配置 **2名に増員**)

※配置校以外の小学校へも、毎月授業参観と授業記録作成、情報交換を行う。

※町内各園へも毎月保育参観(5歳児を中心)と情報伝達を行う。(新規)

(2) 「園小架け橋期カリキュラム検討委員会」の継続

(3) 「架け橋メッセージ」の一層の活用

令和8年度

2. 家庭・近隣市との連携の強化

- (1) 新発田市・阿賀野市・胎内市の指導主事を「連絡協議会」の委員に任命し、架け橋プログラムを連携して進める。(新規)
- (2) 新発田市・阿賀野市・胎内市の小学校長を「有識者会議」の委員に任命し、架け橋プログラムについての理解を深める。(新規)
- (3) 「架け橋期だより」の作成・配付
全3～5歳児保護者と1・2年生保護者へ配布(新規)

(4) 全小学校の就学時健診時に、5歳児の全保護者に
「架け橋期の子育てのポイント」について講話(新規)

講師: 特別支援担当指導主事

内容: ○町の架け橋プログラムの推進について
○架け橋期の子育てで大事なこと

(5) 近隣市連携事業としての研修会の実施

新発田市・阿賀野市・胎内市の園・小学校・教育委員会
にも参加を呼び掛ける

① 「架け橋期特別支援教育研修会」

② 「5歳児架け橋期研究保育協議会」

令和8年度

3. 指導力向上に向けた研修の充実

(1) 町立・私立園研修

訪問研修・合同研修会・オンライン研修会

(2) 園・小・中学校合同研修会

○「架け橋期特別支援教育研修会」(R8 9月3日)

講師: 県幼保小架け橋センター 総括コーディネーター

○「5歳児架け橋期研究保育協議会」(R8 11月19日)

講師: 新潟大学教授

(3) 幼児教育センターだよりの定期的発行

(1) 町立・私立園研修予定

訪問研修

- 町立1園・私立5園に各園月1～2回訪問研修を行う。
(午前保育参観・午後話し合い)

合同研修

- 「3歳児研究保育協議会」(R8 6月17日) 講師:新潟大学講師
- 「4歳児研究保育協議会」(R8 5月20日) 講師:新潟大学教授
- 「ミドルリーダー研修会(新規)」(R8 6月5日) 講師:元園長
※園のミドルリーダーとしての意識の向上
- 「絵画指導力向上研修会(新規)」(R8 5月26日) 講師:絵画講師
- 町オンライン研修会(全6回予定)

これからも

聖籠町の園・小学校・中学校・幼児教育センター
がともに連携し、「未来を創る子どもたち」を大切に
伸ばしていきます。

